Climate Youth Japan
世界にメッセージ発信

学生的若者社会人で組織する団体「Climate Youth Japan」（CYJ）は、地球の未来に重大な影響を及ぼす気候変動問題について、未来を担う若者が主導して対策を模索する活動を行っている。気候変動に関する国際会議で政策決定者への若者のメッセージを伝える活動を発信。昨年12月にベルリン・リで開催された国連気候変動枠組み条約第23回締約国会議（COP23）でも10人を派遣した。2月には仙台、東京、福岡で講演会を開催する。CYJはフィリークのCOP19にも参加した横浜国立大学薬学部3年の学生記者、内藤秀治さん（21）が、取り組みについてリポートする。

気候変動問題　若者主導で解決目指す

CYJは2018年春に、前にデkkerのコペンハーゲンで開催されたCOP15に参加した若者（ユース）によって設立されたネットワーク型NGOだ。現在、メンバーは学生を中心に若者社会人も加入17人が、東京、京都、福岡など全国のユースで組織されている。

定期的ワークショップ
「ユースが気候変動問題を解決に導く　肺から呼吸可能な社会を実現する」という理念を軸に、イベント企画・運営や国際会議へのメンバー派遣のほか、個体とも集団によるイベント開催などさまざまな活動を行っている。

中でも定期的に行っているのが、気候変動問題に焦点を当てたワークショップだ。最近では、昨年3月に横浜市で開催された「気候変動に関する政府間パネル」（IPCC）の総会が開かれたのに乗じて、国連気候変動枠組条約の多言語チラシ、気候変動と科学をつなぐワークショップを開催した。

地球環境問題について市民レベルでの活動を続けている田中幸実氏を講師に迎えたワークショップでは、COP20に向けて「今、私たちが目指すべき世界は、どのような世界か？」について考えた。「若者が作る環境」をキーワードに、地球、デザイナー、政策、都市などさまざまな分野で活躍する若者たちが専門家をゲストに招いたワークショップでは、お茶を楽しみながらカジュアルな雰囲気で自由な意見を交わすことができ、やるべきことについて話し合った。

今後の予定では、3月14日から仙台で開催される「世界気候会議」の市民フォーラムで、気候変動・災害をテーマにしたワークショップを開催する。3月21日には、関西で開催される「若者会議」にメンバーがゲスト出陣する予定だ。気候変動について、CYJがどのような意見を持ち、どのような活動を行っているのか、より多くの人に知ってもらう機会として、次回も横浜市でワークショップを開催している。

CYJでは、気候変動は地球の未来に深刻な影響を及ぼす問題だからこそ、「未来を担う若者が立ち上げるべきだ」との認識に基づき、これまでのワークショップや内閣での発表会を重ね、意見をまとめる声明を国際会議などに合わせて発表している。声明は環境省、外務省、内閣府に提出し意見交換を行ってきた。

サミットやCOPで発声
昨年9月に各国の首脳が出席して地球温暖化対策を討議する気候変動サミットがニューヨークの国連本部で開催された際には、気候変動に関する政策決定者への若者のメッセージを求める声明を発表した。この中で、気候変動問題の解消に向け若者の力が最大に発揮される機会を設けることや、持続可能な社会の実現のため、若者が貢献できるようすることが重要であると述べた。この声明は、世界各国のユース団体を中心に約50団体からも賛同をもった。

昨年12月にベルリン・リで開催されたCOP23でも、東京大学生の学生団体「CCWG」とともに、それぞれ声明を発表し、CYJでは、さまざまな許可のゲストを招き、カジュアルなワークショップを開催している。

3月に発表した声明では、「気候変動に関する世界の青年が求める持続可能な社会の実現への行動」を求める。CCWGは、「気候変動対策におけるリーダーシップの発展」を求めた。

声明の提出時にはCOPで議論される内容について、各国の担当者からチェックを受ける。意見交換を行った。この中で、若者の発言の必要性や環境教育の重要性について議論。政策決定の道に若者の意見が重視され、その意見を政策に反映することの大切さを確認した。

CYJは若者大衆学生団体3年、吉岡川志さん（22）は、「私たちがいまでもないか？若者に声が聞かれないわけではない。次のステップへ進むためのため、全力で気候変動に取り組みたい」と話している。